「スマート林業」協議会が始動

南箕輪　ドローンの効果検証へ

ICT（情報通信技術）等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた産官学の協議会「スマート林業タスクフォースNAGANO」は14日、臨時総会とキックオフ会議を南箕輪村の信州大学農学部で行い、具体的な活動を始めた。今年度は小型無人機（ドローン）を活用した森林資源詳細情報整備に着手。木材の本数や位置、樹高などを正確に把握することによる生産性向上等の効果を検証する。

協議会は今年2月に設立。産官学が一体となり、多分野連携の特別チーム（タスクフォース）で革新的な技術によるシステム構築を図り、林業の成長産業化と資源の持続的な管理の両面で、県内の森林林業を守っていく。協議会に参加する県はスマート林業構築普及事業による支援を行い、長野モデルの確立を進める。

キックオフ会議には約100人が参加した。県事業の概要説明を聞いた後、新しいスマート林業の動向を、林業の生産性向上やコストダウンに関わる技術開発をしている企業が事例として紹介。特別講演で協議会会長の加藤正人信大農学部教授＝森林計測・計画学研究室＝が、海外で行われている先進的な林業を解説した。ドローンを使った森林調査の実演もあった。

協議会では、森林管理や木材生産を行う「川上」部分から、輸送・流通・販売・利用促進に関わる「川下」部分まで視野に入れている。キックオフ会議で加藤会長は「サプライチェーンを含めた流通を川下までを含めて構築していくということで、大いに期待している」と述べた。

臨時総会では今年度の事業計画を決めた。ドローンを使った詳細調査は県内20の林業事業体で実施予定。上伊那地域では上伊那森林組合が伊那市内に対象林を設けて行い、効果を検証する。（倉田高志）

ドローンを使った森林調査の実演を見学する参加者たち＝南箕輪村の信大農学部構内

アツモリ

アツモリソウの自生地で人工授粉の作業をする上伊
校の生徒＝14日、美ケ原高原※画像の一部を加工し

から無菌培養の研究に着手。一昨年5月に県からア

一絶滅危惧種の人工授粉という重圧もあって緊張したが、無事終えられて良かった」と安堵の表情。成果を出すには歳月も必要で「後輩たちに受け継がれ、いつか、アツモリソウがたくさん咲く美ケ原を取り戻すことができれば」と願っていた。

薄紫色の花をつけた美ケ原高原のアツモリソウ

産業遺跡　網田駅

JR九州三角線のほぼ中間地点にある網田駅（熊本県宇土市）。木造平屋建ての駅舎は、九州鉄道時代の1899（明治32）年に建てられ、今も現役で使われている。2013（平成25）年からはコミュニティー施設と喫茶店を兼ねた「網田レトロ館」としての役目も果たすようになった。国の登録有形文化財に登録されている。（前畑洋平・温子）

時30分から、
開く。▽子ど
しと社会保障
義▽見学分科
物をもちこま
ーマに分科会
時から、日本
体協議会（日本
次長の藤森俊
もたちの明る
器のない世界
つくりだそう
念講演。資料
児あり。問い
員の古田久美
90・2410

菓子庵 石川
伊那谷ならではの味わいがぎゅっ
伊那
ベルシャイン
伊那市通